

1 実施状況・回収状況

調査対象	令和6年度			令和5年度			令和4年度		
	依頼数	回収数	回収率	依頼数	回収数	回収率	依頼数	回収数	回収率
生徒	852名	818名	96.0%	857名	765名	89.3%	819名	744名	90.8%
1年生	280名	276名	98.6%	316名	294名	93.0%	273名	263名	96.3%
2年生	308名	294名	95.5%	264名	250名	94.7%	275名	240名	87.3%
3年生	264名	248名	93.9%	277名	221名	79.8%	271名	241名	88.9%
保護者	852名	516名	60.8%	857名	624名	72.8%	819名	616名	75.2%
1年保護者	280名	195名	69.6%	316名	241名	76.3%	273名	219名	80.2%
2年保護者	308名	182名	59.1%	264名	198名	75.0%	275名	210名	76.4%
3年保護者	264名	141名	53.4%	277名	185名	66.8%	271名	187名	69.0%
教員	54名	54名	100%	54名	54名	100%	55名	54名	98.2%

- ・令和6年11月から12月にかけて、全生徒・保護者・教員（教員・非常勤教員・経営企画室）を対象として、Classiまたは紙ベースでアンケートを実施した。
- ・回収率は生徒全体では、ここ3年間で最も高いが、保護者ではここ3年間で最も低くなった。保護者の回答率は、一昨年度より100名、約15%低い。

※生徒・保護者ともに赤字の数値で入学年度からの変化を見ることができる。

2 評価結果の概要

(1) 回答内容の全体的な傾向 1よく当てはまる 2やや当てはまる 3あまり当てはまらない 4全く当てはまらない

回答内容	肯定的回答（1+2）			否定的回答（3+4）			「5 わからない」		
	R6	R5	R4	R6	R5	R4	R6	R5	R4
1年生	78.1%	78.4%	78.3%	21.9%	21.6%	21.7%			
2年生	75.4%	76.5%	78.8%	24.6%	23.5%	21.2%			
3年生	77.9%	79.9%	74.9%	22.1%	20.1%	25.1%			
生徒	77.1%	78.2%	77.4%	22.9%	21.8%	22.6%			
1年保護者	69.8%	69.0%	69.3%	12.8%	12.8%	12.2%	17.4%	18.2%	18.5%
2年保護者	71.3%	70.9%	71.7%	13.0%	12.8%	13.1%	15.7%	16.3%	15.2%
3年保護者	74.0%	75.9%	70.6%	12.2%	11.4%	15.2%	13.8%	12.7%	14.2%
保護者	71.6%	71.7%	70.5%	12.7%	12.4%	13.4%	15.7%	15.9%	16.1%
教員	83.7%	84.1%	86.5%	16.3%	15.9%	13.5%			

- ・生徒については肯定的回答の平均がここ3年間ほぼ横ばいであった。平成30年度までは保護者の平均を下回っていたが、令和元年度以降今日まで、保護者の平均を上回っている。
- ・保護者の肯定的回答、「わからない」の回答の平均は、昨年度とほぼ同様であった。
- ・教員の肯定的回答の平均は4年くらい前まで90%前後で推移していたが、ここ3年間は減少傾向にある。しかし、三者では最も高く、今年度は生徒より6.6%、保護者より約12%高い。

(2) 肯定的回答が多い項目・少ない項目・保護者にとってわかりにくい項目 (資料3参照)

- ・教員では、全29項目中、肯定的回答が12項目で90%以上、1項目で100%であった。
しかし、昨年度より両者とも減少している。

令和5年度 全28項目中、13項目で90%以上、4項目で100%

令和4年度 全28項目中、18項目で90%以上、7項目で100%

<肯定的回答が多い項目>

- ・「入学満足度」「学校行事に積極的」「体罰・いじめがない」では、三者共通して肯定的回答が多い。
- ・生徒では、4年連続して、「体罰・いじめがない」「教員の学習上の質問への対応」「入学満足度」「相談・連絡への対応」の順に肯定的回答が多い。
- ・保護者では、「入学満足度」「体罰・いじめがない」「将来について考えている」「生徒の学校行事への取組」「進学推進校指定を知っている」の順に肯定的回答が多かった。

<肯定的回答が少ない項目>

- ・教員では、4年以上連続して、「施設設備」で肯定的回答が突出して少なく(昨年度7.5%、今年度13.0%)、次いで「校内整備や美化への努力」「防災教育等・・・」の順に少ない。28項目中20項目は80%以上であった。
- ・生徒では、「施設設備」「GE-NET20」指定「校内整備や美化への努力」の順で、肯定的回答が少なかった。「GE-NET20」は「英語教育推進校」の発展的取り組みであるが、依然として名称としては認知度が低かった。
- ・保護者でも、4年以上連続して「施設設備」で肯定的回答が圧倒的に少ない。「地域との良好な関係」「GE-NET20の成果」「国際交流校リーディング校の成果」順で少なかった。

<保護者にとってわかりにくい項目>

- ・保護者の「わからない」の回答については、「地域との関係」「GE-NET20の成果」「国際交流校リーディング校の成果」で「わからない」が多かった。また、東京都教育委員会等指定事業の成果や教員の指導や対応に関する項目で多い。
- ・「教員の学習上の質問への対応」「相談や連絡への適切な対応」について、昨年度同様、生徒では肯定的回答がそれぞれ2番目、4番目に多いが、保護者の回答では「わからない」が多いために、肯定的回答があまり多くない。

3 項目別評価結果<過去3年間の肯定的回答の割合の推移>

項目別に肯定的回答及び保護者の「わからない」の回答の3年間の推移に基づいて考察する。

以下のとおり、一部項目で質問形式・質問内容の変更、質問の追加・中止を行っている。

令和4年度 今までアンケートを専任教員だけに実施していたが、今年度は非常勤教員及び経営企画室職員にも実施

東京都からの「英語教育推進校」の指定から発展的に今年度から「Global Education Network20」(GE-NET 20)の指定を受けた。そのため教育内容的には、「英語教育推進校」時代と大きく変わらないので、質問の語句を「英語教育推進校」から「Global Education Network20」に変更

令和5年度 ・内容的には変更なし

- ・生徒用アンケートを中心に、一部の質問の文言を生徒目線での言い回しに変更

(例) 設問③ あなたは、真面目に授業に取り組んでいますか。

→ あなたは、真剣に授業に取り組んでいますか。

- ・「新型コロナウイルス対応で制約が多い中」の文言を削除
- ・海外学校間交流推進校の取組については、今年度も最近まで交流活動が困難な状況にあったので、昨年度と同様に質問項目から除外した。

令和6年度 ・内容的には変更なし

- ・海外学校間交流推進校の取組については、新型コロナ流行期には質問項目から除外していた。今年度は新型コロナも落ち着き、海外交流も可能になったためこの項目を復活した(28番に挿入)

- ・文言の変更

①18番「学校生活を送れますか」 → 「学校生活を送れていますか」

②19番「防災教育が・・・」 → 「防災教育などの安全への取組が・・・」

(1) 入学満足度・指導方針について

	年度	1年生	2年生	3年生	生徒	1年生保護者	2年生保護者	3年生保護者	保護者	教員
①「入学してよかったと思いますか。＜教員＞三田高校に入学してよかったと思っている生徒・保護者が多いと思いますか。	R6	96.7%	93.9%	96.0%	95.5%	96.5%	95.6%	97.5%	96.5%	98.1%
	R5	96.1%	94.0%	94.6%	94.9%	96.3%	97.5%	95.1%	96.3%	100%
	R4	94.3%	95.0%	94.2%	94.5%	98.2%	93.3%	92.5%	94.8%	100%
②三田高校の「教養・探究・立志そして世界へ」というスローガンを知っていますか。	R6	80.1%	73.1%	69.5%	74.4%	74.1%	75.1%	76.1%	75.1%	92.6%
	R5	74.4%	68.8%	75.1%	72.7%	74.3%	71.7%	73.0%	73.1%	92.3%
	R4	68.8%	72.1%	60.0%	67.0%	70.3%	71.9%	69.5%	70.6%	92.5%

- ・①「**入学満足度**」生徒・保護者・教員ともに肯定的回答が多かった（昨年同様、全設問中、生徒では3番目に多く、保護者では最も多い）。生徒の肯定的回答率の内訳は昨年度、「よく当てはまる」がおおよそ69%、「やや当てはまる」が27%くらいであった。今年度は、「よく当てはまる」が59%、「やや当てはまる」が38%（資料2参照）で肯定的評価全体では変わらないが、内訳は変化している。
- ・②「**スローガンを知っている**」これも昨年同様、生徒は他の設問に比べて肯定的回答が少なかった。

(2) 学習について

	年度	1年生	2年生	3年生	生徒	1年生保護者	2年生保護者	3年生保護者	保護者	教員
③※あなた（あなたのお子さん）は、真剣に授業に取り組めて（取り組んで）いますか。	R6	91.3%	87.1%	89.9%	89.4%	88.8%	82.9%	81.1%	84.3%	96.3%
	R5	91.5%	86.0%	89.6%	89.1%	83.8%	82.8%	83.2%	83.3%	100%
	R4	92.8%	88.7%	88.8%	90.2%	87.2%	83.8%	86.6%	85.9%	100%
④※あなた（あなたのお子さん）は、主体的に自宅学習に取り組めて（取り組んで）いますか。	R6	57.6%	63.3%	91.2%	69.8%	72.4%	71.3%	85.5%	76.1%	77.8%
	R5	52.1%	67.2%	85.1%	66.8%	64.7%	70.2%	83.8%	72.1%	86.8%
	R4	63.1%	53.8%	83.3%	66.6%	65.3%	66.7%	79.7%	70.1%	94.4%
⑤三田高校には、教材や教え方に様々な工夫をしている教員が多いと思いますか。	R6	83.3%	80.3%	80.7%	81.4%	50.6%	53.6%	57.2%	53.7%	98.0%
	R5	87.5%	78.8%	81.4%	82.8%	49.4%	50.0%	62.7%	53.5%	98.0%
	R4	88.6%	85.8%	84.6%	86.4%	49.3%	59.0%	59.5%	55.7%	100%
⑥三田高校では、学習上の質問に教員は、適切に対応していると思いますか。	R6	97.5%	96.6%	96.4%	96.8%	60.9%	64.6%	73.6%	66.2%	100%
	R5	97.5%	95.2%	95.9%	96.3%	60.0%	59.1%	78.4%	65.2%	100%
	R4	95.8%	96.7%	93.3%	95.3%	56.2%	69.5%	70.8%	65.1%	100%

- ・③「**授業への取組**」生徒・保護者全体では、昨年度とここ3年間大きな変化はなかった。教員では肯定的回答が100%でなかったが、三者ともに生徒は真剣に授業に取り組んでいると評価していた。学年別では、ここ3年間共通して1年生で肯定的評価が最も高かった。
- ・④「**自宅学習への取組**」生徒では、肯定的回答が1年、3年が昨年度を上回っている。保護者でも1年の肯定的回答が昨年度より約8%多く、今年度はやや回復した。ここ3年間、教員の肯定的回答が少しずつ減少している。また、ここ3年間共通して生徒・保護者共に受験を控えている3年生の肯定的回答が突出して多い。各年度とも生徒の2年次と3年次の学習に対する意識の違いが明白に表れている。
- ・⑤「**教員の教材・教え方への工夫**」、⑥「**教員の質問への対応**」教員は⑤では肯定的回答が100%ではないが、高い値を示している。保護者は、「わからない」が多く、生徒と比べて肯定的回答がかなり少ない。

(3) 施設・設備（学習環境）、校内美化について

	年度	1年生	2年生	3年生	生徒	1年生 保護者	2年生 保護者	3年生 保護者	保護者	教員
⑦※三田高校の施設や設備は、学習環境として適切なものだと思いますか。	R6	36.2%	46.3%	40.6%	41.1%	28.4%	27.6%	34.6%	30.1%	13.0%
	R5	42.0%	41.2%	48.9%	43.8%	25.0%	30.5%	39.5%	31.0%	7.5%
	R4	36.5%	43.8%	44.6%	41.5%	29.2%	38.6%	32.1%	33.3%	7.4%
⑧三田高校では、生徒や教員が校内整備や美化に努めていると思いますか。	R6	47.1%	51.2%	52.6%	50.2%	56.2%	62.2%	66.7%	61.6%	50.0%
	R5	49.5%	48.4%	52.3%	49.9%	53.3%	61.6%	66.8%	60.0%	49.1%
	R4	55.9%	42.3%	42.9%	47.3%	58.4%	61.0%	58.7%	59.4%	57.4%

- ・⑦「施設・設備」肯定的回答が全項目中、生徒・保護者・教員共に1番少なく、教員に至っては肯定的回答が13%しかなかった。経営企画室を中心に毎年、施設の破損状況を随時改善・修繕要望として都に提出し、生徒の安全に配慮した施設管理を行い、学習環境の保全に努めている。一昨年冬休みにトイレの洋式化がかなり進んだ。また、昨年度は玄関タイルの修繕も行われた。しかし、この項目の肯定的な回答の増加は、もっと根本的な改修や改築が行われない限り望めないだろう。
- ・⑧「校内美化」肯定的回答が生徒・保護者では、ここ3年間大きな変化はないが、教員は減少傾向にある。肯定的回答が生徒では3番目、教員では2番目に少ない。保護者では肯定的回答が過半数ではあるが、全設間中下位に属している。自由記述でも校内美化に関する危機感や改善要望が生徒、保護者共に多かった。整理委員会、保健委員会が中心となり、清掃用具の整備・ゴミ分別の徹底、教室内の換気や加湿等、校内美化と環境整備に努めている。昨年度、新しい取組として、冬休み中に教室・部室の清掃ビフォー・アフター・コンテストが行われていたが、今年度は行われていない。まず日常の清掃活動を徹底し、前述のような校内美化に対する学校全体での意識を高める取組を継続する必要がある。古い施設ではあるが丁寧に使いたい。同様の意見が自由記述にもあった。

(4) 進路指導・キャリア教育等について

	年度	1年生	2年生	3年生	生徒	1年生 保護者	2年生 保護者	3年生 保護者	保護者	教員
⑨三田高校では、生徒・保護者が必要とする進路情報を提供し、適切な進路指導をしていると思いますか。	R6	96.0%	92.5%	88.8%	92.6%	72.2%	84.4%	88.7%	81.7%	88.2%
	R5	92.5%	91.6%	93.3%	92.4%	75.8%	84.8%	87.0%	82.0%	93.9%
	R4	92.4%	92.1%	85.4%	90.0%	74.4%	78.0%	76.9%	76.4%	100%
⑩※あなたは（三田高校では）、将来の在り方や生き方を考える様々な機会を得られて（与えて）いると思いますか。	R6	89.9%	87.0%	88.8%	88.5%	80.5%	79.9%	79.2%	79.9%	96.2%
	R5	90.7%	86.4%	86.0%	87.9%	82.9%	74.7%	80.9%	79.7%	86.0%
	R4	92.7%	87.9%	83.3%	88.1%	76.6%	77.0%	72.3%	75.5%	89.8%
⑪あなたは、自分の（お子さん）の進路や将来の生き方について考えていますか。	R6	87.7%	84.4%	89.2%	86.9%	91.7%	93.9%	96.9%	94.1%	92.5%
	R5	85.1%	88.0%	91.0%	87.8%	96.2%	95.5%	96.2%	96.0%	96.1%
	R4	84.4%	86.6%	86.7%	85.8%	92.2%	95.2%	93.5%	93.6%	88.7%
⑫※三田高校では、将来や世界に向けて視野を広げる機会が得られていると思いますか。	R6	95.3%	84.7%	84.3%	88.2%	87.6%	86.6%	84.9%	86.4%	88.5%
	R5	89.2%	86.4%	87.8%	87.9%	85.4%	84.8%	82.5%	84.3%	88.2%
	R4	91.3%	87.5%	84.2%	87.8%	83.6%	76.1%	73.4%	77.9%	83.7%

⑨<教員>あなたは、生徒・保護者が必要とする進路情報を提供し、適切な進路指導をしていますか。

⑩<教員>あなたは、将来の在り方や生き方を考える様々な機会を与えていますか。

⑪<教員>三田高校には、自分の進路や将来の生き方について考えている生徒が多いと思いますか。

- ・⑨「適切な進路指導」肯定的回答が教員は一昨年度100%であったが、ここ2年間、減少傾向にある。生徒・保護者はここ3年間大きな変化はない。保護者の「わからない」の回答も、ここ3年間大きな変化はない。
- ・⑩「将来を考える機会」教員は肯定的回答が昨年比10%上昇した。生徒・保護者は大きな変化はなかった。学年別に見ると、生徒、保護者共に昨年同様1年生の評価が僅かに高い。
- ・⑪「将来について考えている」生徒全体では、肯定的回答にここ3年間大きな変化はなかった。保護者は肯定的回答は学年が上がる程上昇していた。
- ・⑫「視野を広げる教育」生徒の肯定的回答は昨年同様1年生が最も高かった。保護者は全体では肯定的回答が増加した。教員では昨年とほぼ同様であった。

(5) 生活指導について

	年度	1年生	2年生	3年生	生徒	1年生保護者	2年生保護者	3年生保護者	保護者	教員
⑬<生徒・保護者>あなた(あなたのお子さん)は、基本的な生活習慣が身に付いていると思いますか。	R6	77.5%	78.2%	77.9%	77.9%	78.1%	77.7%	77.4%	77.7%	81.5%
	R5	75.4%	75.6%	79.2%	76.6%	77.4%	76.8%	85.8%	79.7%	86.8%
	R4	73.2%	77.5%	79.2%	76.5%	76.6%	73.2%	82.2%	77.1%	90.7%
⑭<生徒・保護者>※あなた(あなたのお子さん)は、規範意識を持っていると思いますか。	R6	93.8%	92.9%	92.4%	93.0%	90.5%	87.7%	86.1%	88.1%	81.5%
	R5	94.0%	89.2%	87.8%	90.6%	87.4%	84.3%	88.5%	86.8%	88.7%
	R4	94.7%	88.3%	85.8%	89.8%	89.4%	89.0%	89.7%	89.4%	90.7%
⑮<生徒・保護者>※あなた(あなたのお子さん)は、品位ある行動ができていますか。	R6	95.7%	90.5%	92.0%	92.7%	94.1%	86.5%	84.1%	88.3%	75.9%
	R5	92.2%	86.4%	88.7%	89.2%	87.9%	82.8%	88.5%	86.5%	84.9%
	R4	90.5%	87.9%	86.7%	88.4%	84.9%	85.6%	88.1%	86.1%	92.6%

⑬<教員>三田高校には、基本的な生活習慣が身に付いた生徒が多いと思いますか。

⑭<教員>三田高校には、規範意識を持った生徒が多いと思いますか。

⑮<教員>三田高校には、品位ある生徒が多いと思いますか。

- ・⑬「基本的な生活習慣」生徒の肯定的回答は昨年度とほぼ同様であった。保護者は昨年比3年生がやや低かったが、全体は、ほぼ昨年同様であった。教員はここ3年間、減少し一昨年度比20%弱下回った。
- ・⑭「規範意識」肯定的回答が生徒全体では、ここ3年間増加傾向にある。保護者は学年進行に伴って僅かずつ減少傾向にあり、保護者全体でもここ3年間減少傾向にある。教員では⑬同様、過去3年間徐々に減少し一昨年度比10%弱下回った。
- ・⑮「品位」生徒・保護者全体では肯定的回答がほぼ昨年同様か寧ろ増加傾向であった。教員では⑬⑭同様過去3年間徐々に減少し一昨年度比15%強下回った。
- ・生徒・保護者・教員ともに概ね、規範意識を持ち、品位ある生徒が多いと評価していると判断できるが、教員の肯定的回答がいずれも、この3年間、かなり減少傾向にある。教員の自由記述には、生徒指導の見直しを求める内容があった。また、生徒・保護者の自由記述にも「規範意識」「品位」の低下を嘆く声があった。教員の共通理解と同時に生徒・保護者の理解を図り、継続して組織的に指導に取り組む必要がある。

(6) 特別活動・学校生活等について

	年度	1年生	2年生	3年生	生徒	1年生保護者	2年生保護者	3年生保護者	保護者	教員
⑩<生徒・保護者>※あなたは、学校行事に積極的に取り組んでいますか。	R6	95.7%	92.2%	94.4%	94.0%	92.9%	92.7%	92.4%	92.7%	98.1%
	R5	93.6%	93.6%	90.0%	92.6%	93.3%	90.9%	89.6%	91.5%	98.1%
	R4	97.0%	91.7%	88.8%	92.6%	95.4%	92.8%	93.5%	94.0%	98.1%
⑪<生徒・保護者>※あなたは、部活動に積極的に取り組んでいますか。	R6	92.5%	89.2%	92.9%	91.5%	84.6%	84.7%	87.9%	85.7%	92.6%
	R5	91.0%	92.0%	89.5%	90.9%	86.6%	86.4%	84.2%	85.8%	92.5%
	R4	96.0%	88.4%	90.6%	91.9%	93.6%	83.3%	90.3%	89.1%	94.4%

⑩<教員>三田高校には、学校行事に積極的に取り組む生徒が多いと思いますか。

⑪<教員>三田高校には、部活動に積極的に取り組む生徒が多いと思いますか。

- ・⑩「学校行事」、⑪「部活動」例年、三者ともに肯定的回答が80%台後半から90%台の高い割合で推移している。新型コロナウイルス対応で制約を受けることが多かった時期も、学校行事では高い肯定的回答率となっていた。一方、部活動では生徒・保護者ともにコロナ禍初年度は、3年生で肯定的回答の減少が顕著だったが、今年度は平常に回復した。教員では、2項目ともに大きな変化は見られなかった。
- ・⑩学校行事は、生活指導部が学年と連携して指導し、生徒による実行委員会が主体的に運営する体制が定着し、指導における教員の共通理解と生徒のモチベーションが共に高まっている。今年度も体育祭は昨年同様、外部実施ができた。2学期の文化祭（白珠祭）はほぼ制限なく実施できた。外部への公開（保護者も）昨年度から復活した。生徒たちは生き生きと活動していた。2年生も大阪USJや関西方面の国内修学旅行となったが、無事実施できた。3学期の合唱コンクールはインフルエンザ流行の時期であったが、外部会場で、保護者の制限もなく公開でき多くの保護者らが来場した。各クラスで練習を重ねその成果が発揮された。アトラクションで昨年度は教員合唱が、今年度は合唱部と音楽選択者の合唱、弦楽部演奏、吹奏楽部のアンサンブル演奏が行われ盛り上がった。学校行事は生徒が主体となって学校行事に取り組んでいることが評価結果に繋がっていると考えられる。
- ・⑪部活動については、34の部・同好会を設置し、延べ加入率は毎年100%を超える。（今年度114%兼部の結果、実際には無所属は学校全体では30数人はいるようだ）
教員は2～3の部の顧問を担当し、部活動の活性化を図っている。平成30年度からは部活動のガイドラインに基づき、活動日や時間を制限してきたが、三者ともに高い評価を維持している。しかし、約4年前からの新型コロナウイルス対応で、部活動が中止となったり、長時間の活動が難しくなったり、公式戦は引率の教員数の制限や保護者の応援も難しかった。その頃は、保護者からも規制の緩和を求める声が上がっていたが、昨年度からは、ほぼコロナ禍以前と同様な活動に戻った。その成果か、昨年度、春には卓球部男子が関東大会に出場し、夏にはダンス部が全国高校ダンス部公式戦で全国大会準優勝し、さらには吹奏楽部は今年度も夏や冬の大会で幾つもの金賞に輝いている。どの部活動も限られた時間の中で精一杯頑張っており、切磋琢磨している姿が見られる。

	年度	1年生	2年生	3年生	生徒	1年生保護者	2年生保護者	3年生保護者	保護者	教員
⑫三田高校では、体罰やいじめがなく（を受けずに）安心して学校生活を送れますか。	R6	97.8%	99.0%	99.2%	98.8%	94.1%	94.4%	97.5%	95.2%	98.1%
	R5	99.3%	100%	99.1%	99.5%	95.0%	91.9%	92.3%	93.2%	100%
	R4	98.9%	98.9%	98.8%	98.8%	93.6%	90.9%	95.7%	93.3%	100%
⑬三田高校では、防災教育が適切に行われていると思いますか。	R6	59.8%	71.0%	71.4%	67.3%	38.5%	53.4%	54.8%	48.8%	66.7%
	R5	61.6%	71.6%	62.9%	65.3%	36.8%	41.9%	56.3%	44.2%	68.6%
	R4	60.8%	63.8%	38.8%	54.6%	34.9%	46.9%	41.8%	41.1%	64.2%

- ・⑱「**体罰・いじめがない**」肯定的回答が生徒・保護者の全学年で90%を超え、生徒では全項目中で最も多く、保護者では2番目に多く、教員でも100%に近く、三者ともに評価が高い。今後もSNS学校ルールの指導やいじめ調査(年3回)・体罰調査の聞き取りを中心に情報収集を丁寧に継続していくことが重要である。
- ・⑲「**防災教育**」今年度はやや範囲を広げて「防災教育等の安全への取組が適切に行われていますか」に質問を変更した。結果は教員・生徒・保護者共に昨年度までと大きく変化はなかった。三者共にコロナ禍以前に比べ肯定的回答が大幅に減少したままである。新型コロナウイルス対応により、1年生で実施していた宿泊防災訓練が中止となり、避難訓練も放送による訓練となったこと等が大きな要因と考えられる。自由記述には、地震時に校舎の老朽化に対する心配や避難訓練の在り方に対する記述が複数あった。体験的・実践的訓練には制約があるが、生徒の意識に残り、いざという時に役立つ避難訓練・防災訓練でありたい。教員の自由記述にもこれに似た内容の記述が複数あった。首都直下型地震、南海トラフ巨大地震等の地震災害や巨大台風の襲来、気候変動による気象災害に備え防災教育の充実を図る必要がどの学校にもある。

(7) 生徒・保護者への対応、地域との連携について

	年度	1年生	2年生	3年生	生徒	1年生 保護者	2年生 保護者	3年生 保護者	保護者	教員
⑳<生徒・保護者>三田高校では、生徒・保護者からの相談や連絡に、適切に対応していると思いますか。	R6	97.1%	94.2%	93.9%	95.1%	63.1%	74.7%	86.6%	74.2%	96.2%
	R5	96.8%	92.0%	94.1%	94.4%	66.1%	76.1%	83.1%	74.3%	98.0%
	R4	92.8%	95.4%	90.4%	92.9%	68.8%	73.2%	69.7%	70.6%	100%
㉑三田高校は、地域の方々と良い関係を築いていると思いますか。	R6	58.0%	51.9%	57.3%	55.6%	39.6%	39.9%	43.3%	40.9%	83.3%
	R5	71.2%	67.6%	69.7%	69.5%	38.1%	38.1%	52.5%	42.3%	82.7%
	R4	67.3%	67.9%	52.9%	62.9%	32.9%	42.6%	49.7%	41.3%	73.6%

㉑<教員>あなたは、生徒・保護者からの相談や連絡に、適切に対応していますか。

- ・⑳「**相談・連絡への対応**」肯定的回答が生徒は90%超、保護者は平均すると約74%強、教員では96%であった。保護者では「わからない」が毎年20%以上あり。肯定的回答は教員・生徒と比較すると30%から10%以上少ない。
- ・㉑「**地域との良い関係**」教員では肯定的回答が4年以上前までは90%台で推移していた。今年度、昨年ともに80%台前半あった。生徒全体では、昨年度比約14%減少し、全設問中の4番目に少ない。保護者では「わからない」がどの学年でも多く、全体では昨年同様過半数となり、全設問中で最も多い。保護者の肯定的回答も、全設問中で2番目に少ない。隣接する赤羽小学校でダンス部が講演(昨年、一昨年度)したり、地域探検(学校見学)(一昨年度)や三田中学校はじめ近隣中学校に説明に行ったり、出前授業も実施しているがあまり生徒たちや保護者には知られていない。中学校、地域との連携を深め、保護者への通知やホームページ等による情報発信の充実も図りたい。

(8) 東京都教育委員会等指定事業について

- ・東京都教育委員会等指定事業については、平成29年度から取組内容を示した形に変更し、回答しやすいように工夫をしている。認知度は各事業で生徒・保護者ともに様々であったが、保護者の方が生徒より少し高い値になっている。各事業の成果については、保護者では「わからない」が多く、肯定的回答は生徒より少ない。事業の成果については、保護者には評価が難しいと思われる。

	年度	1年生	2年生	3年生	生徒	1年生 保護者	2年生 保護者	3年生 保護者	保護者	教員
②三田高校が、「進学指導推進校」に指定されていることを知っていた。	R6	84.8%	82.6%	81.0%	82.9%	91.7%	93.8%	94.3%	93.3%	96.3%
	R5	81.9%	78.4%	78.7%	79.8%	89.5%	90.3%	91.8%	90.4%	96.0%
	R4	83.3%	79.2%	81.3%	81.3%	87.7%	87.6%	89.2%	88.1%	98.0%
③「進学指導推進校」としての三田高校の事業による成果があがっている。	R6	80.1%	76.5%	77.0%	77.8%	69.8%	62.1%	70.7%	67.4%	88.9%
	R5	83.3%	77.2%	80.1%	80.3%	61.3%	66.2%	73.2%	66.4%	90.6%
	R4	81.4%	81.6%	85.0%	82.6%	65.8%	67.0%	70.8%	67.7%	96.2%

- ・②「**進学指導推進校**」の認知度については、生徒・保護者共に上昇した。
- ・③成果については、肯定的回答がここ3年間、生徒・教員共に少しずつ減少している。

	年度	1年生	2年生	3年生	生徒	1年生 保護者	2年生 保護者	3年生 保護者	保護者	教員
④オンライン学習やICT機器及びクラウドを活用した学習は生徒（あなた…あなたのお子さん）の学習に対する理解を高めている。	R6	71.3%	51.2%	56.5%	59.6%	53.6%	56.8%	55.4%	55.3%	74.1%
	R5	65.7%	59.2%	63.8%	63.0%	50.6%	57.9%	59.6%	55.6%	67.9%
	R4	46.6%	74.6%	60.8%	60.2%	58.4%	61.2%	46.2%	55.7%	86.5%
⑤課題研究やホームプロジェクト等の三田高校の探究学習への取組による成果があがっている。	R6	68.7%	52.9%	68.1%	62.9%	56.5%	62.3%	59.2%	59.4%	68.5%
	R5	70.7%	62.8%	70.6%	68.0%	53.6%	59.2%	57.9%	56.7%	72.5%
	R4	78.6%	70.0%	76.7%	75.2%	57.1%	59.3%	57.1%	57.8%	88.7%

- ④R3年度 「三田高校が、『知的探究イノベーター推進校』に指定されていることを知っていた。」から現行に変更した。肯定的回答は、昨年比、生徒・保護者共に減少したが、教員は増加した。
- ⑤R3年度 『『知的イノベーター推進校』としての三田高校の事業による成果があがっている。』から現行に変更した。肯定的回答は、ここ3年間、生徒・教員は、減少傾向。保護者は昨年より増加した。

- ・④「**オンライン学習やICT機器及びクラウドを活用した学習**」3年前本校は、東京都から「TOKYO デジタルリーディングハイスクール」の指定を受け、新たに定期考査採点・分析システムの活用やデジタルデータ等活用した個別の学び、協働的な学びの実践的研究校となり、生徒にとっても教員にとっても新しいシステムが入ってきた。それらの導入はまだ過渡期で、生徒にとっても教員にとっても十分な熟練状態になっていない。そのあたりが、生徒・保護者の肯定的回答に影響があったと思われる。これらICT機器の効果的な活用は今後に向けて課題である。今年度は、文部科学省から「デジタル人材育成支援事業」(DXハイスクール)指定された。
- ・⑤「**探究学習の取組による成果**」生徒・教員共に肯定的回答はここ3年間減少傾向にある。最近では1年次から探究活動に必要な知識・考え方や技能を身に付けさせる指導をしている。また、先進校の視察や昨年度は都主催の「探究フォーラム」に教員数人が参加し、発表や他校の発表も見聞してきた。そして、今年度は、探究の取り組みを分掌に位置付けた。今後、この成果が徐々に表れると期待される。
三田高校生は、学習、学校行事、部活動等そのどれにも一生懸命取り組む。それ故、課題研究にも一生懸命取り組む。しかし、学習や学校行事の練習が課題研究のまとめの時期に重なったりすると、教員との面談の時間も実際にまとめをグループで行ったりする時間も確保が難しい。これからの社会に必要な課題解決型の学習や取組は学習にも指導にも時間を要する場合が多い。三田高の課題研究スタイル確立に向けて分掌中心に徐々に整いつつある。

	年度	1年生	2年生	3年生	生徒	1年生 保護者	2年生 保護者	3年生 保護者	保護者	教員
②⑥三田高校が、「GE-NET20」に指定されていることを知っている。	R6	41.7%	42.8%	50.0%	44.6%	54.2%	57.7%	63.1%	58.2%	88.9%
	R5	39.3%	37.8%	63.8%	46.0%	44.4%	57.4%	70.6%	56.3%	83.0%
	R4	38.9%	62.9%	30.0%	43.8%	47.0%	64.6%	40.5%	51.1%	92.6%
②⑦「GE-NET20」としての三田高校の事業による成果があがっている。	R6	69.8%	60.8%	57.3%	62.7%	35.9%	44.0%	43.3%	41.1%	85.2%
	R5	63.6%	54.6%	65.0%	61.0%	39.7%	43.6%	47.5%	43.3%	80.4%
	R4	64.1%	72.9%	52.5%	63.2%	36.5%	45.0%	27.6%	36.7%	81.5%
②⑧「国際交流リーディング校」としての三田高校の事業による成果があがっている。	R6	65.2	57.0	57.7	60.0	49.4	44.0	45.9	46.4	87.0

- ・②⑥「GE-NET20」「英語教育推進校」から発展的に変わった事業である。「英語教育推進校」時と実施内容は大きく変わらないので、質問の語句を一昨年「英語教育推進校」から「GE-NET20」に変更した。しかし、生徒にとっても保護者にとっても、「英語教育推進校」に比べ認知度は一時大きく（生徒で40%以上、保護者で40%弱）減少した。昨年から1学年保護者会で「東京都からの指定授業等について」のプリント配布して戴いたりしたが、昨年・今年度とも認知度は変わらなかった。内部及び外部に向けて分かり易い更なる情報発信の工夫の必要性がある。中学生の保護者も高校が東京都や文部科学省等からどんな事業指定を受けているのか少しは関心があるだろう。学校は「GE-NET20」等「英語教育推進校」に比べ、内容が名称から想起しにくい事業については、今後丁寧な説明の必要性がある。
- ・②⑦成果についても、②⑥同様、肯定的回答が生徒・保護者共一昨年度に20%以上減少し、そこから、あまり変化がない。英語教育については、コロナ禍で海外との交流が減少していたが、昨年度あたりからだいぶ復活した。

(9) 働き方改革及びライフ・ワーク・バランスの推進について

	年度	1年生	2年生	3年生	生徒	1年生 保護者	2年生 保護者	3年生 保護者	保護者	教員
②⑨<生徒・保護者>国や都や学校が働き方改革に取り組んでいることを知っている。	R6	56.2%	64.5%	72.6%	64.1%	77.7%	78.3%	82.7%	79.5%	74.1%
	R5	68.9%	71.0%	72.9%	70.8%	77.9%	77.8%	76.0%	77.3%	64.2%
	R4	71.4%	72.9%	68.8%	71.0%	78.1%	75.5%	75.5%	76.4%	61.1%

②⑨<教員>三田高校は、教職員一人一人が仕事と家庭生活を両立させていきいきと働くことのできる職場づくりに取り組んでいる。

- ・この項目は、教職員一人一人のライフ・ワーク・バランスの実現を図るため積極的に取り組んでいるかについて評価する観点から、30年度に新たに設定するように通知された評価項目である。31年度以降、学校でも一斉閉庁日の設定、勤務時間外の留守番電話対応、欠席連絡メール受信対応等の具体的な取組が行われている。働き方改革に対する認知度は生徒では導入時に上昇したようだが、昨年度・今年度も生徒・保護者共に大きくは変わっていない。教員の働き方改革の取組に対する教員の肯定的回答は今年度、約10%増加した。生徒はここ3年間減少傾向にある。